

静岡理科大学 広報誌



キャンパスニュース

C A M P U S N E W S

2005

6

VOL.28



特集

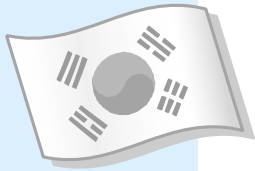
韓国から交換留学生来日
日本と韓国の架け橋になりたい

学生支援施設の紹介

いい汗流しました。

5月、毎年恒例のチャレンジハイクを開催しました。

当日は絶好のウォーキング日和で、参加した学生達は仲間と語らいながら、25キロを完歩しました。



韓国から交換留学生来日

4月、韓国・大邱（デグ）大学から、チョン ソヨンさん、イ ギヨンさんが本学に交換留学生として来日しました。これから1年間、本学で日本について勉強しながら生活をします。日本や袋井の感想、将来の夢などお二人にお話を伺いました。



左よりイ ギヨンさん、チョン ソヨンさん

司 会：まず、日本語を勉強しようとしたきっかけを教えてください。

チョン：父がよく日本を旅行していましたし、日本語も少し話せました。姉もそうでした。だから日本を身近に感じていました。

イ：小学生の頃、中学生だった兄が日本の「ドラゴンボール」「シティハンター」「スラムダンク」などのアニメを紹介してくれました。それがとてもおもしろかったです。最初はハングルに翻訳されたものを見ていました。その後、アニメのオリジナルサウンドトラックを聴いて、歌詞の意味は全くわからなかったけど、日本語の音楽にとっても興味を持ちました。それがきっかけで、大学に進学したら、日本語を専門的に勉強したいと思いました。

司 会：日本語はどのくらい勉強していましたか？

チョン：高校の時、第2外国語として日本語を選択してからずっとです。

イ：大学に入って、1年間勉強しました。韓国では軍隊の入隊があるので、2年間軍隊に入隊して大学に復学し

た後、再度2年間勉強しました。

司 会：どういう勉強方法をされましたか？

イ：ひらがなとカタカナの書き方から始め、発音方法、簡単な単語や文法、尊敬表現などを勉強しました。

司 会：日本語は難しいですか？

イ：韓国語と違い、語順が違うので最初のうちはとまどいでしたが、大分慣れました。

司 会：留学を決めたきっかけはなんですか？

チョン：京都や名古屋に友達がいる、日本で会いたいと思ったのがきっかけです。

イ：最近、韓国国内で日本語を勉強するために学校に行ったり独学で学んだりする人が増えているのですが、私は、日本に行っても色々な体験をしながら、生の日本語を聞いたり使ったりしたいと思いました。

司 会：本学ではどのような授業を受けていますか？

イ：社会学や経済学、国際コミュニケーション、文芸の世界、マクナブ先生の英語の授業も聴講しています。

チョン：私も同じです。

司 会：日本語で授業を受けてみた感想は？

チョン：単語が難しいけど、先生の言っていることは前後の流れでだいたいわかります。

司 会：袋井についてどう思いましたか？

イ：韓国の大学の先輩や同級生などは殆ど東京に留学していたので、日本のイメージというと東京でした。袋井は東京とはあまりにも違うので驚きました。

司 会：東京はどんなところだと聞いていましたか？

イ：にぎやかで人が多いと聞いていました。友達が住んでいた東京の新大久保は韓国人が多いので、日本語は上達できないようです。袋井は韓国人があまりいないので、日本語を使わないと生活できません。日

遠州灘

本年4月1日、新袋井市が誕生した。「市町村合併の特例に関する法律（合併特例法）」の施行に伴い、本学の地元袋井市においても旧袋井市と旧浅羽町が合併し、新市誕生の運びとなった。現在全国的に進められている市町村合併は、住民の利便性の向上、行政の多様化・効率化、広域的なまちづくりなどを目的としているそうである。

行政に限らず、仕事の効率化・利便性の向上などは、私達一人一人の生活においても、また本学の教育・研究体制においても大切なことであろう。何事も人任せ、行政任せにせず、まずは自分自身の足下から見つめ直し、教育・研究活動の改善に努めていこうと考えさせられた新市誕生初日であった。（T）

本語が上達できるので日本語を勉強するのにとてもいい環境だと思います。

チヨン：友達に浜松出身の人がいたので、のんびりしている所だと聞いていました。住んでいる人がみんな優しいと思います。

司 会：袋井で生活してみた感想は？

イ：特に不便を感じたことはありません。大学から自転車を借りているので、通学や買い物は自転車に乗って出かけます。ここが安いと聞けば、自転車に乗って買い物に行くこともあります。

チヨン：私も友達が何かと手伝ってくれるので不便に感じたことはありません。

司 会：袋井市民の方達との交流はありますか？

チヨン：ボランティアのサークル活動に参加しています。袋井養護学校や袋井北小学校などに行き、子供達と遊んだりしてとても楽しいです。

司 会：日本の食べ物は大丈夫ですか？

イ：学生食堂を何回か利用しましたが、カレーやとんかつはおいしいですね。それから、ラーメンもおいしいと思いました。韓国のラーメンはインスタントで辛いのが普通ですが、日本のラーメンは、塩、醤油、味噌など、どの味も辛くはないのですがとてもおいしいと思いました。

チヨン：納豆だけは苦手です。

司 会：韓国の味が懐かしくなったりしませんか？

イ：韓国の実家からおかずを送ってもらって、キムチ鍋を作ったり、チャーハンを作ったりしています。

チヨン：私も実家からキムチなどを送ってもらったりしています。日本のキムチは高いですね。

司 会：日本に来て楽しかったことはありますか？

イ：ゴールデンウィークに理工科大の友人の運転で京都に旅行したことが楽しかったです。清水寺や嵐山などを回りました。お寺が韓国と違うので、とても興味深かったです。

チヨン：私も京都に行ったのが楽しかったです。京都では韓国に留学していた日本人の友達にも会えてうれしかったです。

司 会：日本に来て大変だったことはありますか？

イ：生活の面では大変に感じたことはありません。強いて言うなら大学に女性の学生が少ないことくらいかな。



チヨン：本当に女子学生が少ないのはさびしいと私も思います。それから、最初お母さんに会いたくてホームシックになってしまいました。でも、今は大丈夫です。

司 会：理工科大の感想は？

チヨン：事務の方達がとても親切だと思います。学生達はみんなアルバイトや勉強で忙しそうに見えます。男子学生が多いので恥ずかしくあまり話しかけられませんが。

イ：最初のうちは、学生に話しかけても答えてくれないこともあり、韓国人に興味がないのかなと考えたりしました。今ではサークルの友達もでき、色々話をするようになりました。大邱大学では、講義が終わってからみんなでお酒を飲んだりして親睦を深めたりすることが普通だったのですが、ここではそういうことがないので少し寂しい気もします。

司 会：将来の夢はなんですか？

イ：日本語を活かして、通訳や翻訳の仕事に就きたいです。就職するにしても、日本語を活かせる会社に就職したいです。

チヨン：大邱の近くには日本が関係する貿易関係の会社がたくさんあるので、そういった会社に就職したいです。

司 会：今後、日本でやりたいことはありますか？

チヨン：私は沖縄へ旅行してみたいです。それから日本の友達をもっとたくさん作りたいです。

イ：富士山に登ったり、札幌雪まつりも見てみたいです。それから、学生に限らず、色々な年代の日本人達と交流をしたいです。袋井市民の皆さんとも友達になりたいですね。性別や年齢を問わず、韓国語を学んでみたい方がいたらぜひ大学に連絡して欲しいです。

司 会：1年という短い期間ですが、様々な事を勉強したり体験したりして、有意義な留学生活を送ってください。本日はありがとうございました。

役職者紹介 (平成17年4月1日現在)

学長	塩田 進
学部長	菅沼義昇 (教授)
学生部長	丹羽昌平 (教授)
附属図書館長	玉真昭男 (教授)
機械工学科長	浦田喜彦 (教授)
電気電子情報工学科長	恩田 一 (教授)
情報システム学科長	宮岡 徹 (教授)

物質生命科学科長	古知政勝 (教授)
工作センター長	大塚二郎 (教授)
機器センター長	住谷 實 (教授)
情報センター長	荻野 徹 (教授)
教育開発センター長	桑原宏成 (教授)
事務局長	根津彰弘

学生支援

施設の紹介



本学では、学生の皆さんの勉強に関する相談を受け付ける「教育開発センター」、心の悩みに関する相談を受け付ける「学生相談室」を設置し、学生の皆さんがこれらの悩みを解消して楽しい学生生活を送れるようにサポートしています。教育開発センターは教育棟2階にあり、利用時間は月曜から金曜の9:00～17:50までです。学生相談室を利用したい場合は、直接学務課窓口へ相談に行くか、電話（0538-45-0114・学務課直通）またはメール（kato@ob.sist.ac.jp）で連絡して下さい。



教育開発センター



教育開発センター長
機械工学科教授 桑原 宏成

教育開発センターは、授業についていけず、勉強に悩みを抱える学生諸君の質問、相談を受け付ける場所として平成15年4月に開設しました。場所は教育棟2階の入り口横の部屋で、ブースの中で指導を受けられます。指導教員は数学二人、英語一人で、経験豊富なベテラン揃いです。質問は、勉強方法、問題の解き方、高校で未学習の内容等多岐に亘りますが、訪れた学生諸君はいずれも懇

切丁寧な個別指導を受け、満足して帰ります。中には英語のレベルアップを計る目的の常連もいます。その他就職試験問題の質問も受け付けています。また、各種資格試験の資料も用意しており自由に見ることが出来ます。勉強が出来ないと独り悩まずにどうぞ訪れて下さい、必ずや道が拓かれるでしょう。

担当の先生方の横顔



教育開発センター講師
数学担当 松本 克也

「金谷」生まれで、大変なお茶好き。趣味はウォーキングで、モットーは継続と努力。さて、現在の私にとっては、若い人達を相手に共に語り、共に学び合うことが大きなエネルギー源になっています。学生の皆さんは「今」を大切に生き、将来に

備えて、各面で研鑽を積んで下さい。

私の担当教科は数学で、「基礎数学」の講義、来室学生への指導及び基礎養成の「補習」を受け持っています。この目標は基礎力養成と更なる学力伸長であり、「分かる数学」を念頭に、学生に接しています。気軽に立ち寄って下さい。一生懸命の精神に勝るものはなく、何とかして理解しよう地道に足を運ぶ学生はそれなりに学力が向上し、立派な成績を上げていることは、ここ2年来、熱心に来室する学生の何名かが実証しています。



教育開発センター講師
英語担当 岡部 香代子

英語担当で、英語1、2、3、4とCurrent Englishの授業を持っています。これらの授業で教えることの出来る目新しい英語の知識なんてほと

んど無い、と思っています。それでも授業をするのは、学生の皆さんに自分で勉強出来る力を付けて欲しいからです。ただ単語を並べ替えて日本語訳をしたつもりになるのではなく、文の構造を考えながら左から右に読んでいく岡部式（嘘つけ！）読み方を身に付けてもらいたい。体験したい人は、是非教育開発センターを訪ねてください。3、4年生で、実力アップを目指してセンターを訪問する人が増えているのは、とても嬉しいことです。

三重県津市の農村地帯で生まれ育ちました。近所の小川でメダカを取ったり、蛙の卵に触ったりするのが好きでした。今は、ヨーロッパから帰国してジュビロに入った某ゴールキーパーにメロメロです。



教育開発センター講師
数学担当 **林 昭光**

私も私大に学ぶ学生の親であることから、親の立場から大学の生活を考えてみたい。どの家庭でも、私大に子どもが学ぶ場合、学費（授業料や生活費など）の家計に占める割合はかなり高いのではないかな。これも子どもの将来への投資と考え、一生懸命働いているのが現実であろう。今一度、学生の皆さんは自分自身の教育への費用対効果を考えて欲しい。そして、大学に学ぶことへのモチベーションを高めて講義に臨んで頂きたい。

ところで、理系の大学では数学が不可欠な存在になる。この数学を自分で考え、解いたり、理解することは大変である。幸い、本学では教育開発センターが存在し、数学や英語の面倒を見てくれる。学力を確かなものにするためにも、是非ここを気軽に利用して欲しい。私もスタッフ

の一員として、皆さんに力添えできればと待っています。

私は合併しなかった森町から通勤し、数学を担当しております。

学 生 相 談 室

相談員からのメッセージ



学生相談室相談員
臨床心理士 **渡辺 知子**先生

学生相談員をするようになって今年で4年目です。「学生さんは若くて羨ましい」と最近思うようになりました。

学生さんが、勉強、友人関係、恋愛関係に思い悩むのは当然のことです。しかし、最近相談室にくる学生さんの多くが、困ったことがあったときに誰にも相談しておらず、かといって問題解決のために自分で努力しているわけでもなく、といった状態で身動きが取れなくなっています。また、相談室に来てみたものの、何に困っているか「説明」ができないという学生さんさえいます。困っている学生さんを見て手を差し伸べてくれる親や先生がいればそれでも救われるのでしょうか。しかし、そのまま学校にも来なくなり気がついた時には留年か退学かの判断を迫られるといった場合もあります。

ご家庭では、普段から親元を離れたお子さんの様子に気を配っていますか？「大学生にもなって」と思う

かもしれませんが、高校卒業まで全部親任せ（進路を含む）だった子供が、大学生になったという理由で突然親元から離れての1人暮らしでは途端に路頭に迷ってしまいます。

普段からお子さんと一緒に「困ったときにどうするか」ということを具体的に（誰に・どうやってなど）に話し合っておくことがお子さんを窮地に追い込まない一番の方法です。



学務課職員
産業カウンセラー **加藤 幸子**

年間を通じて60名前後、延べ人数として200人近い学生が相談室を訪れます。一度だけの人、複数回の人、日を変えて来室する人、内容や人によってそれぞれです。問題を乗り越えて卒業の日を迎えて喜ぶこともあれば、解決までに至らず、退学しなければならない学生もあり、そんなときはもっと早く何とか出来たのではないかと悔しい思いをします。

相談室は

個人の秘密を許可なく他人に話すことはありません。

恥ずかしいとか、怒られはしないか、笑われはしないかと自分で判断しないで早目に相談して欲しいと思います。

内容によっては臨床心理士の渡辺先生に相談して、希望があれば医療機関に繋げることも出来ます。

訪室を約束したときは時間を守ってください。キャンセルの時は連絡が必要です。

大学時代は勉強も大事ですが、遊ぶことや失敗すること、恥ずかしい思いをすることなど今でなければ経験できない大切な時間です。心の悩みは、体の不調を訴えるようなわけにはいかないと思いますが、どんなことでも相談に来て下さい。

公開シンポジウム

1月29日(土)「地上デジタル放送を知る」をテーマに平成16年度公開シンポジウムを開催しました。

当日は、NHK営業局受信技術センター統括担当部長の嶋田喜一郎氏による基調講演を受け、各パネラーから事例発表がありました。その後、参加者も交えて活発な質疑が行われました。



卒業式

3月12日(土) 平成16年度卒業証書・学位記授与式を挙行し、理工学部生357名、並びに大学院生25名が卒業しました。

卒業生を代表して、機械工学科の山本準さんが「大学で学んだことを活かし、時代に必要とされる人間になるように努力したい」と社会での活躍を力強く誓いました。



記念植樹

卒業式前日の3月11日(金) 卒業生代表が大学近くの愛野公園へ「寒緋桜」かんひざくらを記念植樹しました。この植樹は、卒業生が4年間お世話になった袋井市民へのお礼として一期生から毎年行っており、今回で11本目の植樹になりました。



入学式

4月6日(水) 平成17年度入学式を挙行し、理工学部_部に366名、大学院に23名が入学しました。

新入生を代表して、物質生命科学科の加藤幸さんが「大学の伝統を受け継ぎ、21世紀にはばたく科学技術者を目指し努力します」と宣誓しました。



新入生合宿研修

4月11日(月) 12日(火)の1泊2日、新入生366名、編入生6名と教職員67名の計439名が参加し、新入生合宿研修を行いました。学科ごとに愛知万博、トヨタ自動車(株)のトヨタ記念館などを見学し、宿泊先では全学科とも学科別全体研修と助言教員との懇談を行いました。



SIST企業セミナー

4月14日(木) SIST企業セミナーを開催しました、約340名の学生が参加し、人事担当者との面談に臨みました。今年は、事前に企業の研究をし、積極的に質問するなど熱心な態度で参加する学生が多く見られ、多くの企業の方からお褒めの言葉をいただきました。



チャレンジハイク

5月14日(土) 恒例のチャレンジハイク(クラブ連合委員会主催:委員長情報システム学科3年生内藤正浩君)を開催しました。コースは大学 エコパ 愛野公園 可睡齋 油山寺 大学の約25kmで、学生65名と教職員5名が参加しました。



優秀賞表彰式

1年間の学業成績が優秀であり、人物面においても本学学生として模範である学生に贈られる「静岡理科大学優秀賞」の表彰式を5月17日(火)に行い、受賞者30名に学長より表彰状と副賞が授与されました。受賞者は次の通りです。

機械工学科

2年生 青木 孝太	3年生 大塚 基裕	4年生 加藤 徹也
足立 直紀	曾根 悠毅	金原 良将

電気電子情報工学科・電子工学科

2年生 中川 和知	3年生 坂下 享史	4年生 鈴木 博也
山下 洋輝	塚本 真裕	森 章紀

情報システム学科

2年生 小田 順也	3年生 杉橋 徹郎	4年生 池田 恭大
杉本 有里	高木 昭佳	今釜 光輔
丸山 亜鷹	玉井 涼	渡会 雄基
村松 諭	横山 裕	伊藤 聖一

物質生命科学科・物質科学科

2年生 永倉 和彦	3年生 半田 典寿	4年生 池上 慎一
水野 知	松下 亨	近藤 良彦



Citizens VOICE

市民のみなさんから理工科大へのメッセージを紹介します。

市民の声



産学官の連携を

袋井市教育委員会生涯学習課
課長 伊藤 覚さん

現代社会の中で、生涯学習に求められていることは、市民一人一人の自己実現に向けた学習の充実だけでなく、生涯学習の成果が地域の産業や文化の発展につながるものにしていかなければいけないということです。そのためには、学校を中心に企業や行政が連携を図り、それぞれが持つ教育資源や教育方法を提供しあうことにより、お互いにメリットが生まれるような取り組みが必要になります。理工科大は、インターンシップの取り組みや地元企業との共同研究、大学講座の市民への開放等を積極的に推進していただいております。袋井市の生涯学習を推進する上で非常に大きな役割を果たしているものと感謝しております。貴校の「ものづくりへの挑戦」と「人間性・社会性の高揚」を目指した教育が、袋井市の教育理念「心ゆたかな人づくり」を具現化するための柱になるよう、今後とも産学官の連携を積極的に図っていきたいと思います。



情熱と創意工夫の ものづくり

東海アクシス看護専門学校
副校長 見城咲子さん

ものづくりに生きる小関智弘さんは、職人は、ものを作る手立てを考え、道具を工夫する。だから、ものが完成すること以上に、その過程が自由で、楽しいといひます。それを聞いて、世界お茶まつりで、給茶ロボットについて熱く語る学生さんを思い出しました。初めて取り組むことへの緊張と不安もあったけれど、すごい事をやるのだという、価値を見出し、挑戦する強い意志力で完成させたと思います。ものづくりへの情熱が気持ちを奮い立たせているようでした。

対象こそ違いますが、看護も、どうしたら相手がよりよい健康生活ができるかを、追究する職業です。看護師ひとりひとりの人間愛と創意工夫の精神が大切なのです。

ひとつのことに情熱をもって、真剣に取り組む姿は、美しいと実感しました。

電気電子情報工学科 野村研究室

おじゃまします。



* 野村龍男先生のプロフィール

広島県広島市出身。小学校3年生の頃、鉱石ラジオを作ったのがきっかけで、中学、高校時代には短波受信機や送信機、オシロスコープづくりに没頭し、大学では電気工学を専攻しました。企業の研究所では、光磁気メモリの開発初期から関わり、国内における草分け的な存在になりました。今日、エレクトロニクスの成果が何気なく使われているためか、電気・電子に強い関心をもつ若者が少なくなったことに危機感を覚えています。

高密度光メモリ研究室

身近な例でいえば、パソコン、デジタルカメラなどは、情報を記録する装置があってはじめて使いものになります。だが、このメモリの重要さに気づいている人は意外にも少ない。メモリには半導体、磁気あるいは光を使うものがあり、これらのメモリの単位面積あたりに記録できる情報量（記録密度）は、これまで日進月歩で増えてきました。が、近年、それぞれのもつ物理的な限界に近づいてきており、その進歩の度合いは落ちてきています。この問題を乗り越えるには、従来の方法の延長線上にはない新しいメモリの研究が必要となります。この研究室は、磁気と光のもつ特徴を活かして、情報を2次元的に記録・読み出しすることにより高密度メモリを実現しようとする研究を行っています。

研究室学生からひとこと 石川陽子

野村研究室では高密度光メモリの研究を行っています。そのため研究室には光学機器が置いてあります。私の研究は超音波振動子の駆動回路の検討で、刻字用超音波振動子の電気的特性について調べているところです。研究室では自分で責任をもって勉強したり、遊んだりしながら仲間と協力して楽しく過ごしています。まだ、研究と呼べるようなことは行っていませんが、この研究室で有意義な日々が送れたらよいと思います。

研究室訪問

第18回

授業科目の紹介

情報システム学科 教授 菅沼義昇

ホームページを作成する上で最も重要な概念がユーザビリティ（使いやすさ）です（私のホームページは？）

ユーザビリティを大きく左右するのが、芸術的な意味だけではなく、広い意味

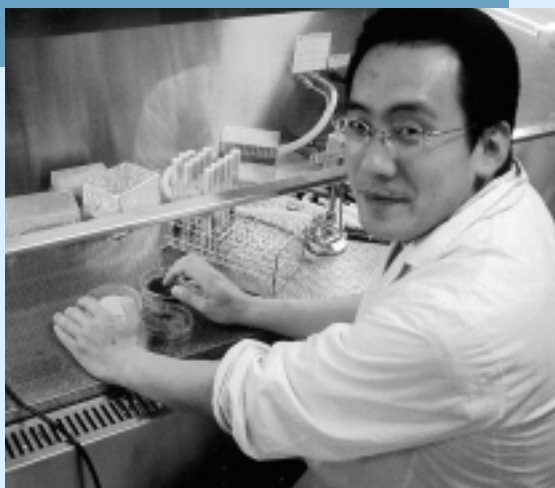


でのデザインです。

ホームページをデザイ

ンするにあたり、ホームページ

でどのようなことが実現可能であるかを、少なくとも情報システム学科の学生は知っておいてもらいたいと思い、この講義を立ち上げました。講義では、HTML、JavaScript、C/C++、Javaを利用して、様々なホームページを作成し、その機能の概要を理解してもらうことを目的としています。内容的には、「Webプログラミング」という講義名称の方がふさわしいかもしれませんが。各言語について詳細な説明を行う時間はありませんので、例を中心に、演習やレポートを通して理解してもらうことにしています。



天然新素材科学研究所
株式会社

専務取締役

酒井康雄さん

物質科学科第1期卒業生

活躍する卒業生

私は、理工科大の第1期生として卒業後、静岡県立大学大学院へ進学しました。その後、大学院時代の研究テーマに魅せられてしまい、そのまま気づけば静岡県立大学の恩師とともに県立大学発ベンチャー企業「天然新素材科学研究所株式会社」を立ち上げておりました。

現在の弊社の業務は、カニやエビ、きのこ類など数多くの天然物に含まれているキチン・キトサンを出発物質として使用し、各種天然物を活用した人体や環境に優しい独創的な製品作りを行っております。また弊社オリジナルブランド製品以外にも、合成物質から天然物質への転換を望まれる企業様のご希望に沿った形で、研究開発から受託合成までを一貫して請け負わせていただいております。

理工科大での4年間は、第1期生ということもあり大学生活自体右も左もわからない状態から、先生方のご尽力もあり研究の楽しさや奥深さを教えていただきました。今でも仕事で壁にぶつかったりしますと、ふと大学時代を振り返ったりします。私も常にチャレンジ精神を持って、来年開学15周年目を迎える理工科大に負けぬように日々邁進していきたいと思っております。

2006年度入試日程

入試種別	出願期間	試験日	合否通知日
一般推薦	平成17年10月21日(金)~11月2日(水)	11月12日(土)	11月18日(金)
一般前期(A) 一般前期(B)	平成18年1月5日(木)~1月24日(火)	1月31日(火)、2月1日(水) 2月2日(木)《試験日自由選択》	2月10日(金)
前期センター試験利用入試	平成18年1月5日(木)~1月27日(金)	本学独自の個別試験なし	
一般後期	平成18年2月20日(月)~3月2日(木)	3月9日(木)	3月17日(金)
後期センター試験利用入試	平成18年2月20日(月)~3月6日(月)	本学独自の個別試験なし	



秋山助教授、富田助教授が袋井市から感謝状

3月27日(日) 浅羽町との合併に伴う袋井市の閉市式が行われ、袋井市から本学情報システム学科秋山憲治助教授に対して、

「袋井市男女共同参画プラン策定懇話会長及び同推進懇話会長として男女共同参画社会の実現に尽くした」として教育学術文化功労感謝状、また、同学科富田寿人助教授に対して、「ウォーキング事業の指導にあたり健康意識の向上に尽くした」として保健衛生功労感謝状が贈呈されました。



秋山助教授



富田助教授

大学院で単位互換

本学と静岡大学は両大学院理工学研究科で単位互換を行うことになり、4月20日(水) 本学で調印式を行いました。

今回の単位互換は平成15年、16年度に合同で社会人を対象にした技術経営(MOT)の講座を開催したのがきっかけで、両大学の教育資源を有効活用しようとMOT関連の講義で単位互換を行うことになりました。

学長特別表彰

本学硬式野球部の坂田義之君(機械工学科4年)が、春季静岡県大学野球リーグで、1年生のときの秋季リーグに続いて、史上2人目となる2度目の首位打者とベストナインを獲得しました。この栄誉を祝福し5月24日(火) 学長より学長特別表彰が授与されました。



サークル紹介

硬式テニス部

部長 漢人 隆史



硬式テニス部は、砂入り人工芝コート3面という環境の中で、のびのびと活動しています。純粋にテニスがうまくなりたい仲間の結成、テニスの技術向上のみならずテニスを通して新しい人脈を広げていくことを目的としています。今からテニスを始めようと思っている人も、やる気さえあれば経験者が適切に教えてくれるのでとても楽しめると思います。そして地元の大会や対校試合への出場、他にも親睦を深めるための合宿や飲み会など多くのイベントもあります。

テニス部では、学年、学科、性別、テニス経験に関係なく、いつでも部員を募集しています。少しでも興味を持ったあなた、一度に遊びに来て見ませんか。

平成17年度 公開講座

5
21
土

家庭における教育を考える
講演1 **現代における子育ての心理学**
静岡理科大学 理工学部 助手 **小杉 大輔**
講演2 **家庭教育の社会的役割**
静岡理科大学 理工学部 講師 **小栗 勝也**

6
18
土

壮年・中年のうちに考える高齢期の生活
講演1 **夢とふれあいのある健康づくりへ**
静岡県立大学 看護学部 教授 **松田 正巳**
講演2 **充実した高齢期生活のための準備**
静岡理科大学 理工学部 助教授 **秋山 憲治**

9
10
土

自然界の生き物から学ぶロボット開発
講演1 **生き物に学ぶマイクロロボットのメカニズム**
静岡理科大学 理工学部 助手 **見崎 大悟**
講演2 **生き物に学ぶロボットの知能化**
首都大学東京 システムデザイン学部 助手 **館山 武史**

10
15
土

微生物利用による環境の再生
講演1 **猛毒ダイオキシンや有害化学物質を分解処理するバクテリア**
静岡理科大学 理工学部 教授 **惣田 昱夫**
講演2 **生ごみからエネルギーを回収する**
メタン発酵をめぐる最近の話題
株式会社荏原総合研究所 生物研究室長
兼 東京工業大学大学院 客員教授 **宮 晶子**

会場 / 静岡理科大学 学生ホール 時間 / 13:30 ~ 16:30
3階 300講義室 参加費 / 無料
申込方法 / 直接会場へお越しください(事前申込不要)

学年暦

学部	
前期定期試験	7月26日(火)~8月4日(木)
夏期休業	8月5日(金)~9月21日(水)
前期追・再試験対象者発表	8月25日(木)
前期追・再試験期間	9月1日(木)~9月7日(水)
後期ガイダンス	9月22日(木)
後期授業開始	9月26日(月)
大学祭	10月29日(土)・30日(日)
冬期休業	12月27日(火)~1月9日(月)
後期試験	1月19日(木)~1月30日(月)
後期追・再試験対象者発表	2月10日(金)
後期追・再試験期間	2月20日(月)~2月24日(金)
春期休業	2月25日(土)~3月31日(木)
卒業生発表	3月10日(金)
卒業式	3月18日(土)
大学院	
前期定期試験	7月26日(火)~8月4日(木)
夏期休業	8月5日(金)~9月19日(月)
後期履修ガイダンス	9月20日(火)~9月22日(木)
後期授業開始	9月26日(月)
冬期休業	12月27日(火)~1月9日(月)
後期試験	1月19日(木)~1月30日(月)
春期休業	2月25日(土)~3月31日(木)
修了者発表	3月10日(金)
修了式	3月18日(土)

スポットライト

がんばれ!
理工科大生



機械工学科4年 **坂田 義之**

小学校2年生の時にリトルリーグに入ったのが野球をはじめたきっかけです。高校時代も野球部に所属していましたが、甲子園出場という目標が果たせず、悔いが残っていたので、大学に進学してからも野球を続けました。

特にタイトルを意識してやっていたわけではありませんが、今回、県大学野球リーグの史上2人目、2度目の首位打者を獲得できたことは、自分がこの4年間努力してきたことが結果に繋がったようでとてもうれしいです。1度目は1年生の時に獲得したのですが、勢いで獲得したところもありました。しかし今回は、バッティングに対して自分で考え、試した結果、自分が納得するバッティングが出来ました。同じ打ち方でも意識の仕方でも全く違うと思います。練習をすれば結果は必ずついてくると実感することができました。

野球は、苦しいことや辛いこともあります。しかし、野球を通して忍耐することや結果を出すために工夫することなど様々なことを学びました。野球は団体スポーツなので、みんなで力を合わせて勝利するという一つの目標に向かって頑張ることができ、勝利した時はみんなで喜べる楽しさがあります。野球に興味のある学生は、ぜひ野球部に参加してほしいと思います。

大学卒業後は全国どこでもいっているので社会人野球のチームに入り、野球を続けていくことが夢です。社会人野球のチームに入ることは、厳しい狭き門なので、現在も毎日練習を欠かさず、週に4~5回、高校の野球部の練習に参加したりして選考試験に備えています。夢が実現できるように限られた時間を最大限練習に励みたいと思います。



ホームカミングデーの開催

10月30日（大学祭2日目） 本学にて第5回ホームカミングデーを開催します。

当日は、豪華商品が当たる大抽選会やイベントを企画しています。同窓会員の皆さんのご参加をお待ちしています。

日 時：平成17年10月30日（日）

午前11時～12時30分

場 所：本学食堂
（体育厚生棟1階）

参加費：無料



大学祭実行委員会からの お知らせ

大学祭実行委員長 尾山 敬祐

私達大学祭実行委員会では、大学祭の企画から運営を行っています。今年度の大学祭は、10月29日、30日に開催を予定しています。主な企画として、芸能人お笑いライブ、熱気球、フリーマーケット、電気自動車コンテスト、バンド演奏、模擬店や、研究室展示などを行います。また、来場していただいたお子様連れのお客様にも楽しんでいただけるようスタンプラリーやビンゴ大会、風船のプレゼントなども企画しています。

現在、各大学合同の会議に出席し、イベント案を考えたりしています。より皆さんに楽しんでいただける大学祭を目指して頑張っていきたいと思っております。



後援会

だより

就任挨拶

後援会長 鈴木 康久



4月に開催されました後援会総会において会長に選任されました鈴木でございます。

後援会は、大学開学と同時に発足し、本学で学ぶ学部生および院生への福利厚生・課外活動・教育活動・就職開拓の援助等を行うことにより、その成果の向上と大学の発展

に寄与することを目的とし、活動を続けております。10月には、大学と共催で「父母懇談会」を開催し、後援会会員の皆様に大学の状況やご子弟の学生生活についてより詳しくご説明する予定であります。

後援会会員の皆様方のご意向を、役員の皆様と大学事務局の皆様と相談しながら後援会に反映していきたいと考えております。ご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

父母懇談会の開催

日 時：平成17年10月29日（土） 10:30～

<大学祭1日目>

会 場：本学300講義室（学生ホール3階）

父母懇談会では、午前に全体会と学科別懇談会、午後個別面談（希望者のみ）を開催します。なお、詳細なご案内は9月にお送りする成績表に同封させていただきます。



編集後記

今回は特集記事として「学生支援施設」を紹介しました。教育機器も通信手段も少し前の時代では考えられないほど便利になりましたが、やはり人と人とが直接会って話をすることが何より大切なのだと再認識しました。勉学のサポート、心のサポートだけでなく、日常の学生同士や教職員との触れ合いも含めて、小規模な大学だからこそ守ることのできる雰囲気大切にしたいと思っています。（T）

静岡理科大学キャンパスニュース

平成17年6月20日発行

企画・編集・発行 / 静岡理科大学広報推進部会

〒437-8555 静岡県袋井市豊沢2200-2

TEL.0538-45-0111 FAX.0538-45-0110

<http://www.sist.ac.jp>